

高規格堤防の今後の整備区間における着実な整備の推進について

【国土交通省】

■ 要請事項

今後の整備区間として位置付けられた多摩川右岸の高規格堤防整備事業について、着実な整備の推進を図ること。

- ・ 戸手地区の早期完了に向けた上流部の事業推進
- ・ 殿町地区全域における計画的な整備の推進

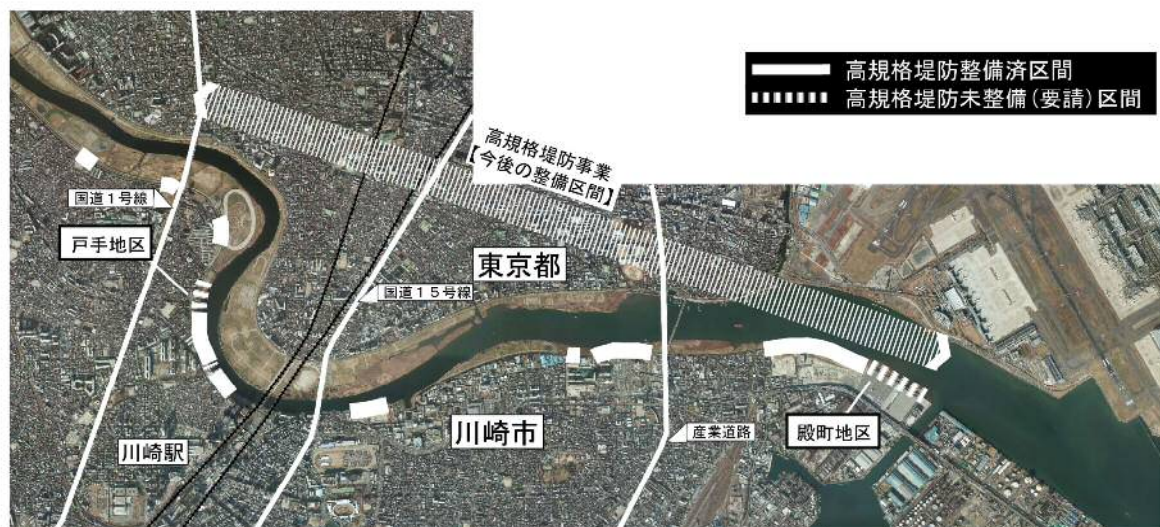
■ 要請の背景

- 高規格堤防については、平成23年12月の第7回「高規格堤防の見直しに関する検討会」において、人口が集中した地域で、堤防が決壊すると甚大な人的被害が発生する可能性が高い区間に大幅に絞り込んで整備するとされ、多摩川については、下流域から国道1号線付近までが今後の整備区間として位置付けられました。
- 整備区間内の戸手地区については、高規格堤防の整備を前提としたまちづくりが進められており、また、増水時に度々冠水し、堤防が決壊すると川崎駅周辺地区などにおいて甚大な人的被害が発生する恐れがあるなど、整備緊急度の高い地域となっているため、残る上流部についても整備を推進し、早期に完了する必要があります。
- 殿町地区については、羽田空港との近接性等を活かした「国際戦略総合特別区域」の指定を受け、ライフサイエンス・環境分野の高度な先端技術を有する研究機関等が集積した研究開発拠点の形成を目指しており、同地区の治水安全度の向上を図るためにも、運河までの全域において計画的な整備を推進する必要があります。

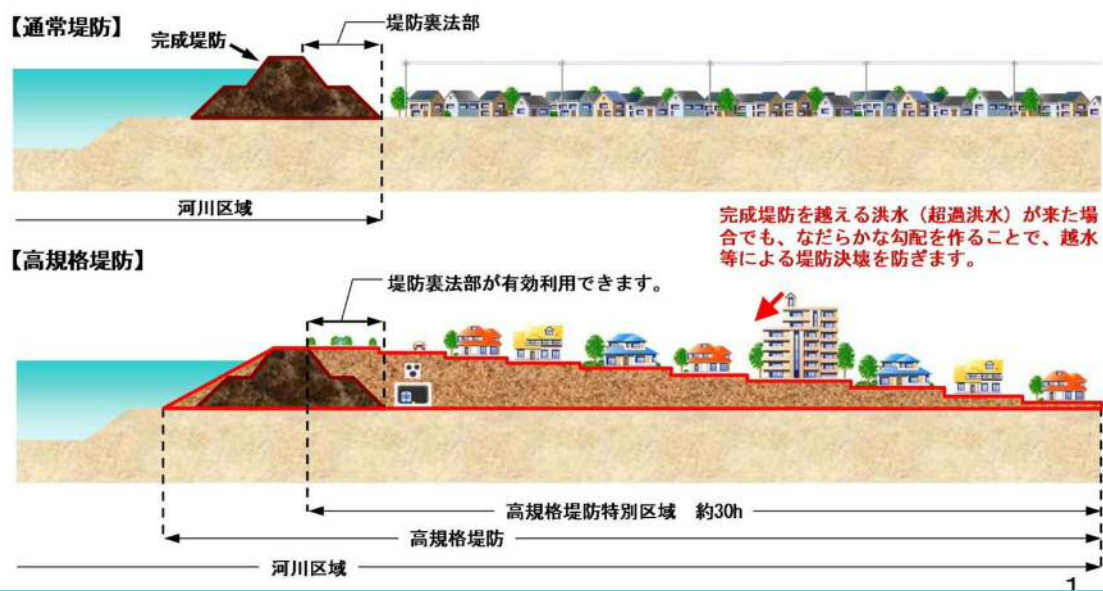
■ 効果等

- 高規格堤防の整備により、周辺地域全体の治水安全度の向上が図られます。
- 高規格堤防の整備に併せたまちづくりにより、良好な住環境の形成が図られます。

戸手地区・殿町地区（位置図）



高規格堤防整備事業（概要）



戸手地区



殿町地区



川崎縦貫高速鉄道線の整備に向けた最先端 鉄道技術等の研究開発について

【国土交通省】

■ 要請事項

我が国の有する最先端の鉄道技術や環境技術を活かし、燃料電池やリチウムイオン電池等の次世代電池を用いた電車等の導入に向け、一層の研究開発に取り組むこと。

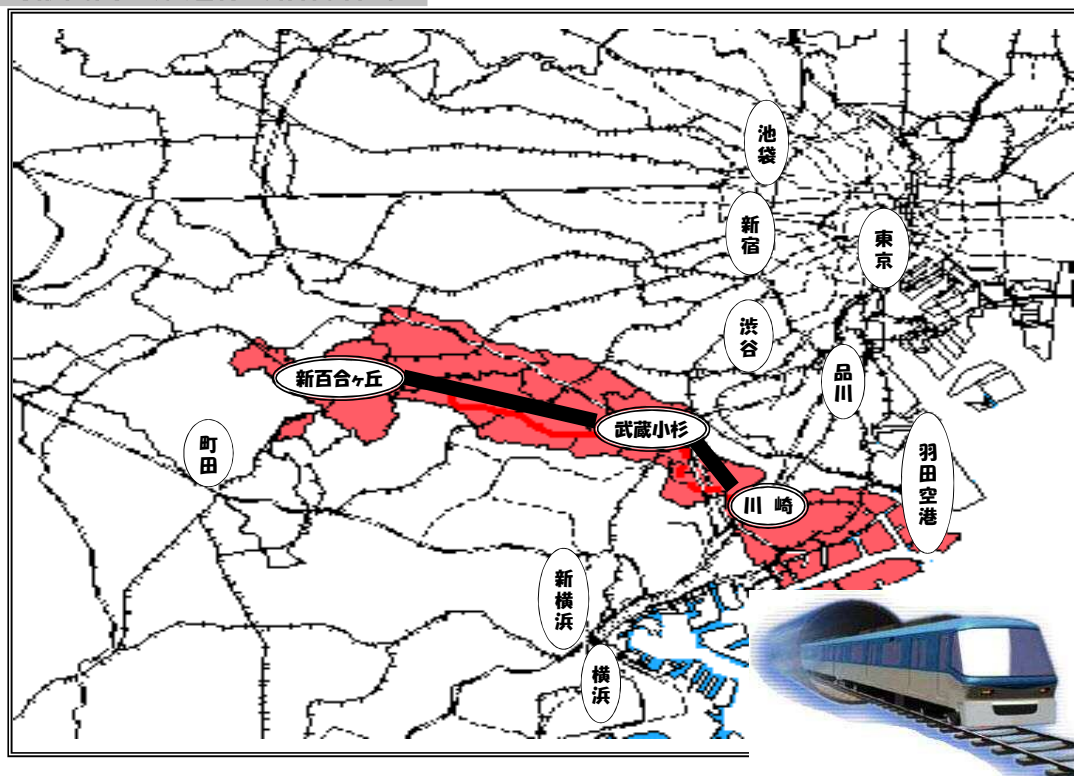
■ 要請の背景

- 川崎縦貫高速鉄道線は、本市における重要な社会基盤となるものであり、市内鉄道不便地域の改善や既存鉄道の混雑緩和のほか、首都圏における広域鉄道ネットワークの形成など様々な整備効果が期待されています。
- 交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会では、燃料電池車両など環境に優しい鉄道輸送の実現に向けた技術開発に取り組む必要性が提言されています。
- 本市では川崎縦貫高速鉄道線の事業推進に向け、臨海部における環境技術をはじめとする先端技術の集積等を活かし、環境面や災害時の対応に寄与し、コスト削減にも資する新技術について、開発の情報収集や関係機関との情報交換等を進め、その導入に向けて取り組んでいます。

■ 効果等

- 新技術の実用化は、地球温暖化の抑制や水素など未利用エネルギーの活用による循環型社会形成や、自立発電による災害時等の交通の確保などに寄与するとともに、その技術を導入する本路線の整備により、環境技術を活かした首都圏における鉄道ネットワークの形成等都市機能の向上が図られます。

川崎縦貫高速鉄道線 路線計画図



川崎縦貫高速鉄道線の事業推進に向けた取組

「新技術による川崎縦貫鉄道整備推進検討委員会」

- ・ 現計画の検証を行い整備意義・必要性を確認
- ・ 環境問題や災害時の対応への貢献など、社会的ニーズへの寄与を検討し、整備意義・必要性を確認

事業推進に向けた考え方

- ・ 事業性が見込めること、整備目的が達成されること、社会的ニーズへ寄与することから、整備意義・必要性が十分ある。
- ・ 導入意義のある蓄電池あるいは燃料電池といった動力システムは、実用化に向けた技術開発を要する。

川崎市総合都市交通計画に位置付け

- ・ 中長期（20年内）に着手（事業化）を目指す事業

この要請文の担当課 / まちづくり局交通政策室 TEL 044-200-3550

川崎駅周辺地区の整備推進について

【国土交通省】

■ 要請事項

川崎駅周辺地区の都市拠点機能整備について、各事業の進展に合わせた必要な財政措置を講ずること。

■ 要請の背景

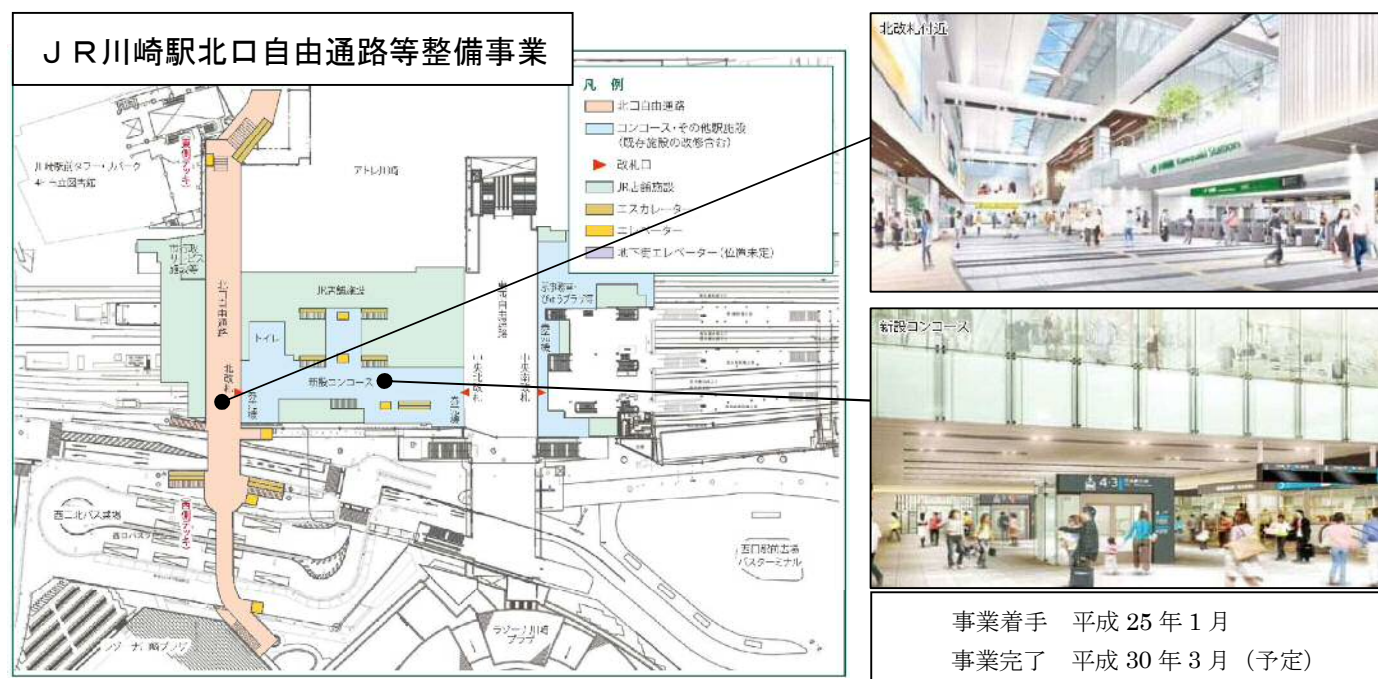
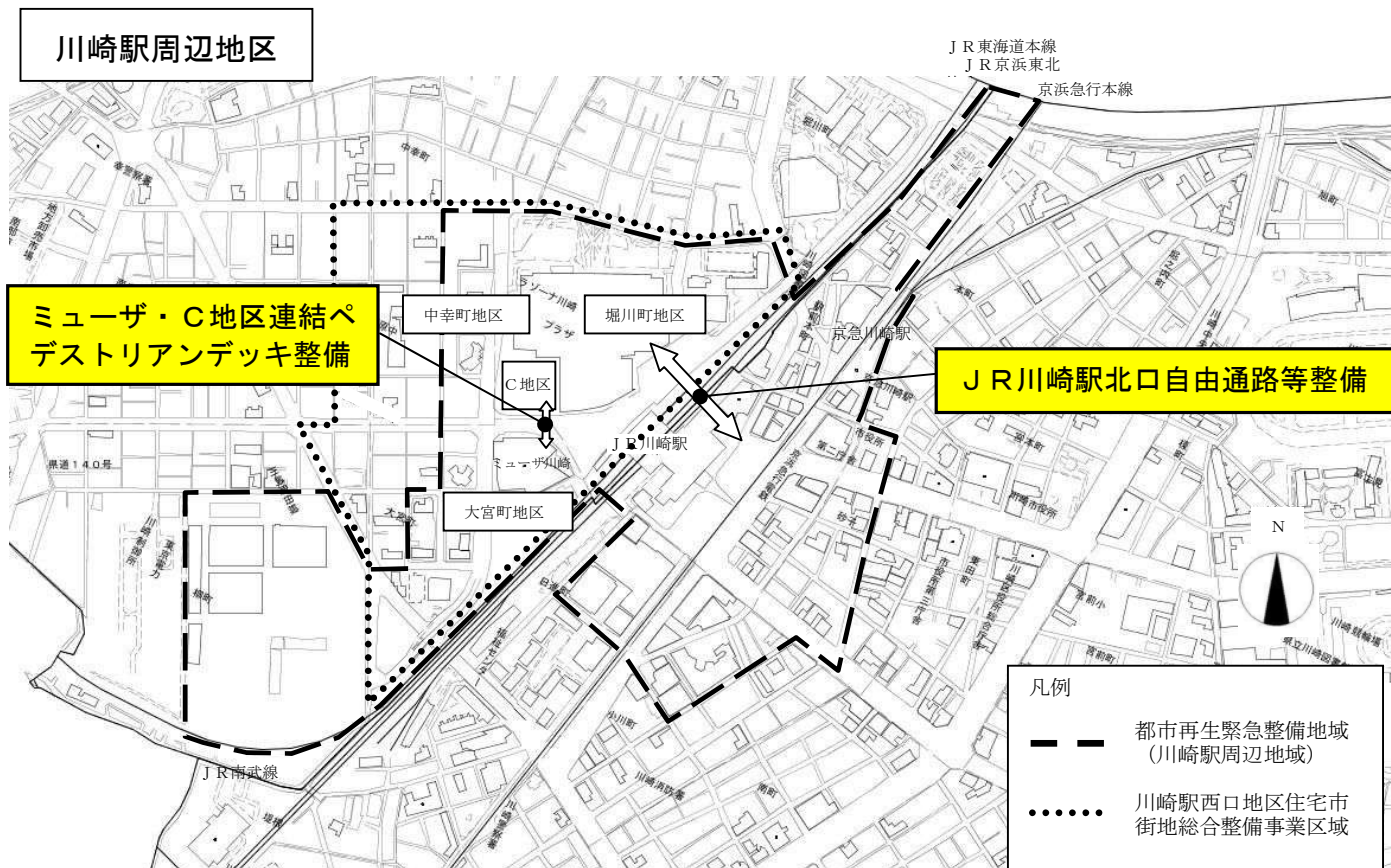
- 川崎駅周辺地区は、広域拠点として位置づけ、民間活力の導入などにより、個性と魅力にあふれた拠点形成を進めており、また、都市再生緊急整備地域に指定され、市街地の活性化やにぎわいのある都市空間の形成を図るなど、都市再生に向けた取組を推進しています。
- J R川崎駅の東西を回遊する主動線である東西自由通路は、駅西口における大規模商業施設や都市型住宅等の整備により利用者が増加していることから、混雑解消と歩行者動線の分散、駅周辺の回遊性強化と利便性向上を図るため、新たな改札口とあわせた北口自由通路の整備に平成24年度に着手し、平成29年度の完了を予定しています。
- 川崎駅西口地区は、民間の開発動向をとらえ、適切な誘導を行うとともに、歩行者動線を確保するため公共基盤の整備を行う必要があります。

■ 費用

- 平成26年度計画事業費 約16.2億円（国費 約7.9億円）
 - ・ J R川崎駅北口自由通路等整備事業 約15.8億円（国費 約7.7億円）
 - ・ ミューザ・C地区連結ペDESTリアンデッキ整備事業等 約0.4億円（国費 約0.2億円）

■ 効果等

- 北口自由通路の整備による、東西自由通路の混雑解消、東口と西口における回遊性の強化と利便性の向上
- 川崎駅西口地区の公共基盤の整備による、歩行者動線の確保、回遊性の強化



■ 今後の費用の見込み

(単位：億円)

事業名称		H25 予算	H26 計画	H27 計画	H28 計画	H29 計画
J R川崎駅北口自由通路等整備事業	事業費	7.1	15.8	31.5	35.2	29.0
	うち国費	3.4	7.7	15.5	17.3	14.2
ミュージア・C地区連結ペデストリアンデッキ整備事業等	事業費	0.4	0.4	3.7	—	—
	うち国費	0.2	0.2	1.8	—	—

この要請文の担当課／まちづくり局市街地開発部市街地整備推進課 TEL 044-200-3009

新川崎・鹿島田駅周辺地区の整備推進について

【国土交通省】

■ 要請事項

新川崎・鹿島田駅周辺地区の整備について、各事業の進展に合わせた必要な財政措置を講ずること。

■ 要請の背景

- 新川崎地区は、地域生活拠点として、都市型住宅、業務、研究開発等の都市機能の集積を図り、地区計画に基づく民間開発を適切に誘導し、道路等の都市基盤整備を進め、安全で活力あるまちづくりを進めています。特に、鹿島田こ線歩道橋については、平成23年度に橋脚架設等が完了し、平成24年度には、橋桁架設に着手し、平成25年度の完了を予定しています。また、交通広場及び自転車等駐車場についても、併せて整備を行い、平成26年度までの完了を予定しています。
- 鹿島田駅周辺地区は、地域生活拠点として、都市型住宅、商業等の都市機能を集積し、道路等の都市基盤整備を図るため、市街地再開発事業により、土地の高度利用と都市計画道路等の公共施設整備を行うことで、安全性、利便性の向上に向けたまちづくりを進めています。このようなまちづくりの実現に向け、本市初の株式会社施行による再開発事業として進めており、平成24年度に着手し、平成26年度の工事完了を予定しています。

■ 費用

- 平成26年度計画事業費 約30.3億円 (国費 約14.9億円)
 - ・ 新川崎地区整備事業 約4.2億円 (国費 約 1.7億円)
 - ・ 鹿島田駅周辺再開発事業 約26.1億円 (国費 約13.2億円)

■ 効果等

- 特色ある市街地形成、地域特性を活かした安全で魅力ある地域生活拠点の形成
- 駅周辺の低未利用地の高度利用を図り、安全性、利便性の高い良好な複合市街地の形成

新川崎・鹿島田駅周辺地区位置図（神奈川県川崎市）



■ 今後の費用の見込み

（単位：億円）

事業名称		H25 予算	H26 計画
新川崎地区整備事業	事業費	14.4	4.2
	うち国費	5.8	1.7
鹿島田駅周辺再開発事業	事業費	21.3	26.1
	うち国費	10.7	13.2

この要請文の担当課 / まちづくり局市街地開発部市街地整備推進課 TEL 044-200-3803

小杉駅周辺地区の整備推進について

【国土交通省】

■ 要請事項

小杉駅周辺再開発事業等の進展に合わせ、必要な措置を講ずること。

■ 要請の背景

- 本市では、小杉駅周辺地区を広域拠点として位置づけ、先端技術を中心とした研究開発・生産機能の高度化を図るとともに、駅に近接した4地区の市街地再開発事業により駅前広場や道路等の公共施設を整備改善し、商業・業務・文化交流・都市型住宅等の諸機能が集積した集約型の都市構造を目指したまちづくりを進めています。
- これらの再開発事業により、地区幹線道路等の整備を行うとともに、市民自治活動拠点施設・児童厚生施設・駐車場などの公共公益施設の再編整備を行い、新たに駅周辺に保育所などの公益施設や商業・業務等の諸機能を集積する計画としています。
- 平成25年度に2地区が完成予定ですが、平成26年度は、既に施設建築物や公共施設の整備を進めている地区と調査設計業務を進める地区があり、これらの事業の着実な推進を図る必要があります。

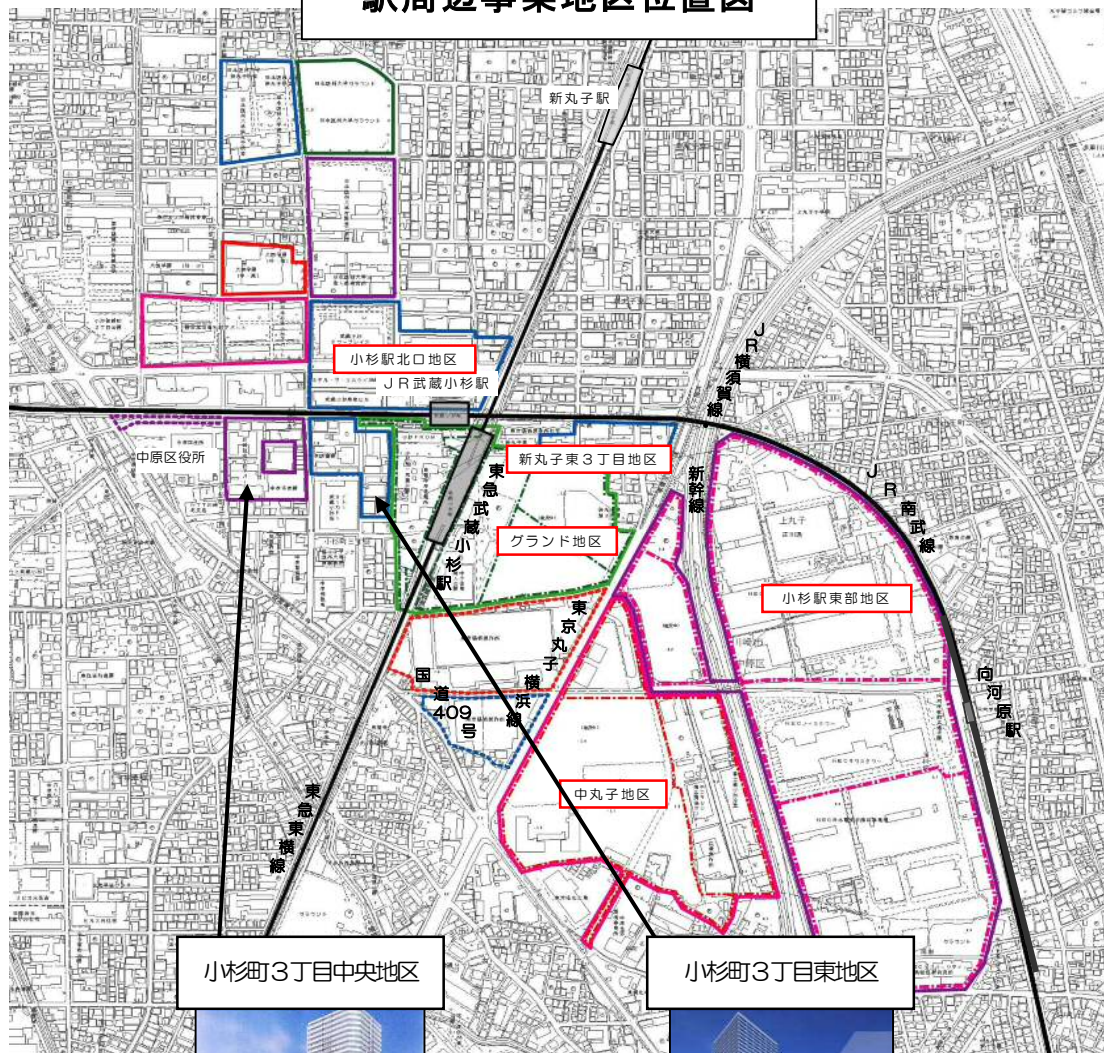
■ 費用

- 平成26年度計画事業費 約6.3億円（国費 約2.9億円）
 - ・ 小杉町3丁目中央地区 約5.0億円（国費 約2.3億円）
 - ・ 小杉町3丁目東地区 約1.3億円（国費 約0.6億円）

■ 効果等

- 土地の集約化と高度利用を図ることにより、駅周辺の都市基盤の整備や市民利用施設の集約が図られ、本市の広域拠点としてふさわしい都市機能が形成されます。
- 駅周辺に市民利用施設等が集約されることにより、利用者の利便性の向上が図られます。

駅周辺事業地区位置図



工事着手 平成23年5月
工事完了 平成27年3月(予定)



都市計画決定 平成25年度(予定)
権利変換 平成26年度(予定)
工事着手 平成27年度(予定)
工事完了 平成30年度(予定)

■ 今後の費用の見込み

(単位：億円)

事業名称		H25 予算	H26 計画	H27 計画	H28 計画	H29 以降
小杉町3丁目中央地区	事業費	約17.0	約5.0			
	うち国費	約8.2	約2.3			
小杉町3丁目東地区	事業費	約1.0	約1.3	約19.0	約7.6	約16.4
	うち国費	約0.4	約0.6	約9.5	約3.8	約8.2

この要請文の担当課／まちづくり局小杉駅周辺総合整備推進室 TEL 044-200-2722

登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区の整備推進について

【国土交通省】

■ 要請事項

- 1 登戸駅周辺地区及び向ヶ丘遊園駅周辺地区における建築物等の移転及び公共施設等の整備推進に対する財政措置を講ずること。
- 2 都市計画道路登戸2号線及び登戸3号線の早期整備に対する財政措置を講ずること。
- 3 向ヶ丘遊園駅連絡通路の整備推進に対する財政措置を講ずること。

■ 要請の背景

- 昭和63年9月に土地区画整理事業の計画が決定した本地区は、本市の地域生活拠点として、また、多摩区の商業、業務の中心地区としてふさわしいまちを目指し、土地区画整理事業により都市計画道路等公共施設の整備等による総合的な土地利用を行い、地域生活拠点機能の確立並びに商業・業務機能を強化するとともに、安全で快適な市街地形成を推進しています。
- 向ヶ丘遊園駅周辺への連絡通路の整備により、駅周辺の円滑な移動経路を確保するとともに、回遊性の向上と地域の交流を促進しています。

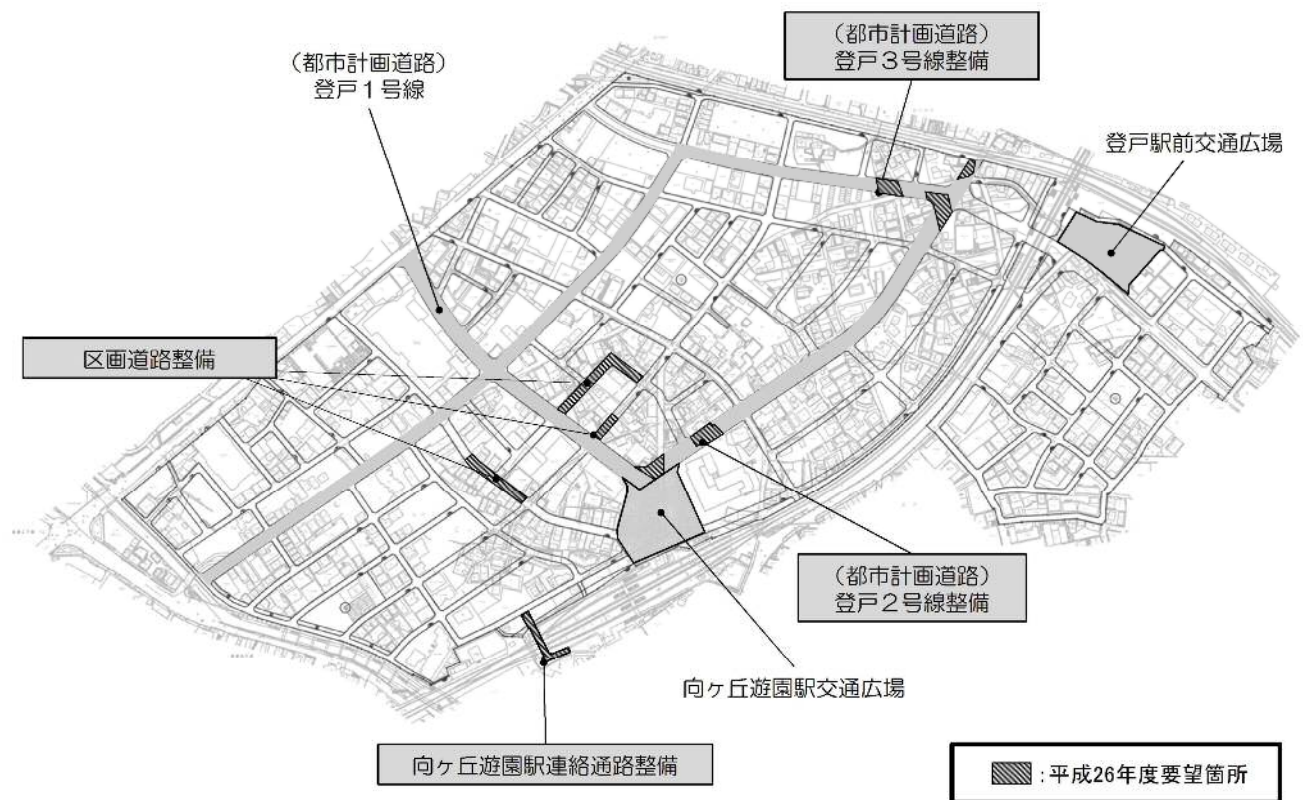
■ 費用

- 平成26年度計画事業費 約21.9億円 (国費 約9.0億円)
- ・ 登戸2号線、3号線整備等 約2.1億円 (国費 約1.1億円)
- ・ 区画道路整備等 約15.3億円 (国費 約6.1億円)
- ・ 向ヶ丘遊園駅連絡通路整備 約4.5億円 (国費 約1.8億円)

■ 効果等

- 区画整理事業による密集市街地解消及び防災性の向上
- 都市計画道路整備による地区内交通の円滑化
- 駅周辺整備による交通結節機能の強化
- 連絡通路整備による地域分断の解消

【登戸・向ヶ丘遊園周辺地区】位置図及び平成 26 年度要望箇所



■ 登戸土地区画整理事業の進捗状況（平成 25 年 3 月末現在）

項 目	累計面積・延長	進捗率(%)
仮換地指定面積 (263,148 m ²)	170,751 m ²	64.9
使用開始面積 (263,148 m ²)	130,650 m ²	49.6
建築物等移転棟数 (1,358 棟)	692 棟	51.0
道路築造延長 (11,890m)	5,229m	44.0



■ 今後の費用の見込み

(単位：億円)

事業名称		H25 予算	H26 計画	H27 計画	H28 計画	H29 以降
登戸 土地区画整理事業	事業費	9.0	17.4	24.1	24.9	104.6
	うち国費	3.6	7.2	10.3	10.8	45.0
向ヶ丘遊園駅 連絡通路整備事業	事業費	6.8	4.5	0	—	—
	うち国費	2.7	1.8	0	—	—

この要請文の担当課／まちづくり局登戸区画整理事務所 TEL 044-933-8511
まちづくり局交通政策室 TEL 044-200-2348

